

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホーム ベにばら(ユニット1)		
所在地	雨竜郡秩父別町1542番地33		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で、楽しみながら、機能訓練に繋がるレクリエーションに取り組んでいる。2ユニットの特性を生かし、月に1回のペースで合同レクリエーションを開催し、ユニット対抗で競い合う事で、個々のやる気にも繋がっている。また、その時々季節にしか味わえない行事、例えば、春には花見、夏は戸外で焼き肉、海見物、秋は紅葉狩り等、入居者の楽しみ事、気分転換の支援をしている。そして、地域交流として、8月には、流しそうめん、べにばら夏祭、12月には餅つきを行い、交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部に位置し、近くには役場、郵便局、商店、温泉、ローズガーデン、田園などがあり居住環境に恵まれている。当法人は町内でディサービス(指定管理者)、グループホーム、介護付有料老人ホーム等を運営し、事業所間で人事交流をして蓄積されたノウハウをケアに活かし、専門性の高いケアは地域の信頼を得ている。木造平屋の事業所の居間は広く、居室は居間に面して開放感があり、広い居間ではテレビ体操、ユニット対抗合同レクリエーションなどを行って利用者同士の交流と機能訓練に繋げている。利用者同士の仲もよく、それぞれの居場所でも、思い思いのことをして過ごしている。利用者の様子をグループホームだよりで家族に知らせ、家族アンケートなどで要望を聞いている。又、理事長自ら事業所を巡回し利用者の声、職員の意見・要望を聞いて運営に反映させている。事業所の行事には多くの地域住民が参加し、小学校、保育園との交流、ボランティアによる演芸など地域との交流も盛んに行われている。職員は明るく生き生きとして、家庭的な雰囲気を作り、生き甲斐のある生活ができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を唱え共有し、実践に繋がっている。	事業所理念(ケア理念)・・・(地域の方々と共に、安らぎある笑顔たえない健やかな人生を送っていただく。)をホームに掲示し、共有して、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の機会を作るよう、働き掛けている。今後も定期的に交流をもっていきたいと考え、取り組んでいる。	町内会に加入し、事業所の行事(べにばら祭り、餅つき大会等)に多数の地域住民が参加している。小学校の学芸会見学、保育園児との交流など地域の一員として交流し、理念の実現に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて、活かしている。また、地域交流のふれあいの場で認知症の方への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価の取り組みについて、報告している。議題を上げて、意見を出して頂けるよう取り組んでいる。	年間6回開催し、利用者代表、家族、町内会長、民生委員、町職員などが出席して、行事報告、研修報告、利用者の状況などについて報告・意見交換して、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と、日頃から連絡を取り、グループホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え、現在の地域の現状などを提供して頂き、協力関係を築いている。	毎月、事業所の運営等について、町担当者を訪問して報告し、指導助言を得て、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、研修等を通し、身体拘束に対象する行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ、防犯の為、施錠している。	内部研修を実施し、身体拘束の自己評価を6ヶ月に1回行って、自己評価表で点検し、拘束のないケアに取り組んでいる。SOSネットワーク(役場、警察)で地域との協力関係を築いている。チャイムを活用して、夜間以外は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などで学び、報告し、スタッフ同士での話し合いをし、防止に努めている。又、半年に1回、身体拘束・虐待予防・防止自己評価を全スタッフがいき、自己を見直し、虐待防止に努めている。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議で学ぶ機会を持ち、ビデオで学習し、必要に応じて活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、家族や利用者の不安や疑問点がないか、伺うようにして、理解や納得を頂けるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの実施や来訪時に、家族が意見や要望を気軽に話せるよう努めている。	利用者との会話、家族来訪時の会話、年1回の家族へのアンケートから要望や意見を把握し、ユニット会議、全体会議で話し合っ、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットの会議や全体会議で話し合う機会を設けてくれている。又、個人的にも話す機会を設けている。	運営者と職員間は極めて風通りが良く、個人面談、ユニット会議、全体会議で意見・要望を出して検討し運営に反映させている。運営者は事業所を巡回し利用者の声、職員の意見・要望を汲み取るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上を持って働ける様、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加を進めてくれ、職員のスキルアップの手助けをしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内の同業者の会や研修等に参加し、交流を持ちネットワークを広げておる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や求める事を傾聴し受け止める様、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や、不安や負担を軽減出来る様、まずは、話を聞かせて頂き、家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で、本人の思い家族の思いを見極め、現状にあったサービスを考え、対応に努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に家事を行ったり、昔の話を聞かせて頂いている。その中で学んだり、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、一緒に受診に行ったり、誕生日や行事に参加して頂いたり、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者に対して、何時でも気兼ねなく来訪して頂けるよう支援に努めている。	契約時に利用者、家族から馴染みの情報を得て、美容室、買い物、お寺、お墓参りへ行くなど利用者の思いに沿った支援をしている。友人の来訪も多く利用者と友人の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、利用者同士が一緒に時間を過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の状態や、近況等を電話やお会いした時にお聞きし、相談援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や、ケアプランの見直し時期には、家族や本人に希望を聞き、意向の把握に努めている。	日々の生活の中での何気ない会話、しぐさ、表情、家族へのアンケートなどから希望、意向の把握に努め、ケア会議、全体会議で共有して、希望や意向に添うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談や日々の会話から本人や、家族に聞き把握し、他スタッフにも伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でよく観察し、状態を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に要望を聞いた上で、全スタッフとケースカンファレンスを行い、意見を出してもらい、ケアプランを作成している。	センター方式を活用し、利用者、家族の意向を反映させ、全体会議で意見交換し、長期6ヶ月、短期3ヶ月毎に介護計画を作成し、家族に説明して承認を得ている。状況に変化があれば適宜対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録にその時の事を記録し、課題を実践した時は、その番号を記入する等、スタッフ間で情報を共有しながら、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応して、支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで、町内の方々々がダンスや餅つきに来訪され、楽しむことができる様、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、係りつけ医を受診出来るように、支援している。医療機関とは関係を築きながら、医療を受けられる様、支援している。	依頼があれば、いままでのかかりつけ医へ同行支援し、結果を家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師に相談、報告し、個々に合った受診や対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院医師、看護師と常に連絡、相談体制を築き、早期退院に向けて組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明の際に重度化についての説明をし、方針を共有している。	契約時に「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」に基づき説明し同意を得ている。看取りの実績は無いが、重度化が認められた段階で本人・家族に説明し、方針を共有して医師と連携し対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急の対応マニュアルの活用や勉強会で対応について学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しており、全員が対応出来るようにしている。又、近所の方々にも、避難訓練の参加をお願いしている。町内会にも回覧板にて協力要請している。	マニュアルに基づき年2回、消防署の指導を受け、避難・消火訓練を実施している。地域住民へ非難訓練に参加協力を呼びかけているが、参加協力を得るまでに至っていない。	災害の際に地域住民の協力が得られるよう、地域や町内会との関係を深めて、更なる働きかけを期待する。 通信網が破壊された時を予想して、一時避難場所を予め家族等へ通知する事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し、尊厳を忘れず、人格プライバシーを守った声掛けの対応をしている。	チェックリストを作り尊厳やプライバシーを損ねないケアをしている。失禁した場合は尊厳を損ねないよう特に注意し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず、本人に希望、意思を確認し、決定できるよう、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、スタッフの都合で待たせたり、急がず事のないように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必ず、本人の希望を聞き、日々の服を選択してもらうなど、希望に添える様なケアに心掛けている。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は出来る方は限られているが、出来る事をスタッフと一緒にしている。	元気な利用者は職員と一緒に買い物、調理、下膳等をしている。メニューは栄養士が作成し、利用者の誕生日には希望のメニューを取り入れている。地域住民、家族から頂いた野菜、トマト、ブロッコリーなど旬の食材を献立に取り入れ、職員と一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等にて、スタッフ全員が把握し、個人の状態に応じて配慮、支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、その方の力に応じた支援をしている。又、夕食後には、義歯は、洗浄剤に付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、職員が共有して適時に声かけ誘導し、排泄の自立に努めている。失禁したときは、プライバシーを傷つけないよう配慮し、トイレから直接風呂場へ行き、他人に分らないようシャワーを使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎朝ヨーグルトを提供し、体操、運動への働きかけをし、予防に取り組んでいる。それでも便秘の方には下剤を服用してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛け時、必ず本人の意思を確認し、希望に沿った対応が出来る様努めている。	基本は週2回以上とし、好きな時間に入浴できる。入浴を拒否する利用者には、時間を遅らせるなど、意思を尊重しながら声かけに工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい時に休めるよう、体調を見ながら声掛けし、休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬について、用法、効能、副作用等の理解、把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーション、外出、散歩等で、楽しみや気分転換が出来るよう支援している。		

グループホーム ベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたいとの訴えがあった時は、すぐに行けるように対応している。季節に合わせて、花見や果物狩り、ドライブ等に行っている。	くだもの狩り、花見、紅葉狩り、ドライブ、散歩など外出支援している。町内会・地域の協力で初めての流しそうめんをを外で実施した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方に対しては、小遣い程度は所持しており、受診時や、外出時に欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度、対応し支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓し、障害物のないよう気を付け、安心して生活できる空間作り心がけている。。又、季節感のある花や飾り物(雛人形、兜、クリスマスツリー、笹の葉)などで、心地良く過ごして頂いている。	居間は広くゆったりし、ソファも利用者が家庭的な雰囲気の中でテレビを見たり、思い思いに過ごせるよう配置に工夫されている。廊下の壁には、外出の時などの写真を「ベにばら写真館」として貼付し、折り紙で作った作品、千羽づるなどを展示し、明るく居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの場所に配慮し、自由に過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や布団等を持って来て頂き、慣れた物や好きな物の中で、生活出来るよう工夫している。	使い慣れた布団、カーテンを持ち込み、壁には貼り絵、布で作ったふくろうの作品を展示し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等は、目印を付けるなど、わかりやすいよう工夫している。		